

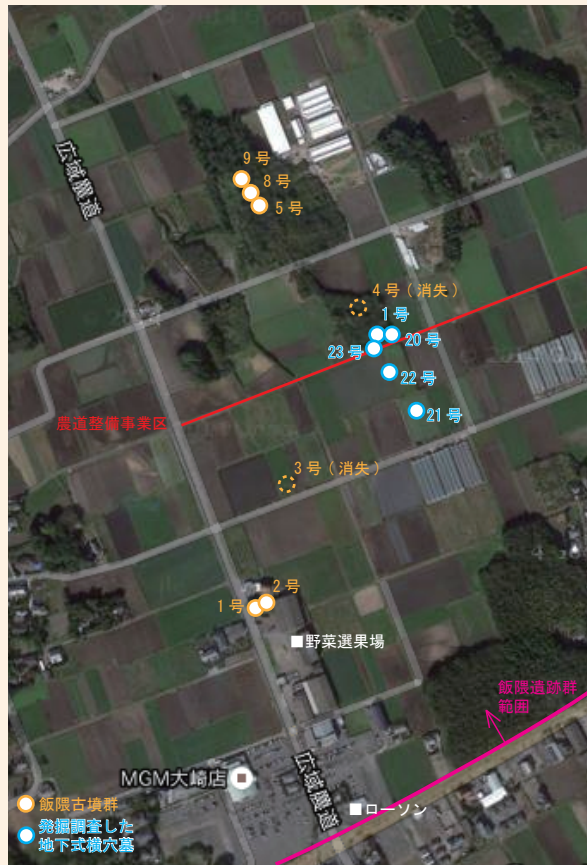
1、飯隈遺跡群発掘調査とは？

大崎町教育委員会 社会教育課では、昨年の7月から今年の3月まで飯隈遺跡群の発掘調査を行いました。発掘調査を行う事となった理由は、右の地図のように農道の整備計画地が飯隈遺跡群内にあったからです。平成23年度、遺跡が本当に存在しているのかどうか確かめるため、農道整備事業にかかる範囲内で確認調査※1を実施しました。確認調査を実施した結果、地下式横穴墓（ちかしきよこあなぼ）と呼ばれる古墳時代の墓が2基発見されました。

発見されたお墓は、地下に空洞をもつお墓で工事の際に陥没したりする危険もあったため、工事に着手する前に発掘調査を行うことになりました。ところが今年度は、農道整備事業の近隣にある畑でも陥没したとの通報があり、現地検証した結果、地下式横穴墓であることがわかりました。偶発的に遺跡が見つかることを不時発見ともいいます。

このように、農道整備事業や畑の陥没によって飯隈遺跡群から計5基の地下式横穴墓が発見され、発掘調査を行いました。

※1 遺跡の有無を確認するため、幅1m長さ2m程度の範囲で試験的に発掘する方法。



飯隈遺跡群発掘調査場所 (Google マップより転載)

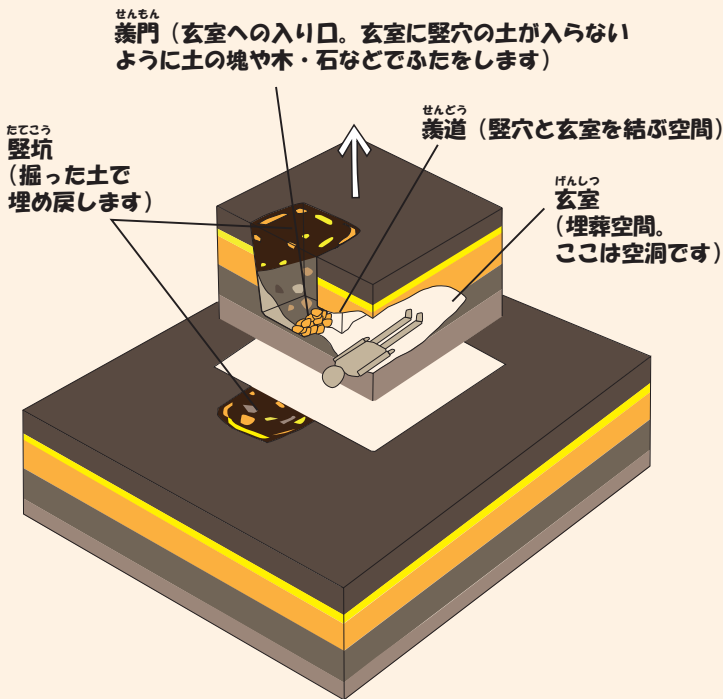
2、地下式横穴墓って何？

日本考古学用語辞典では、『地表面に竪坑（たてこう）を深く掘りさげ、さらにその底から横に羨道（せんどう）をうがち、奥に墓室を設けたものである。』とあり、地下に空洞をもつお墓を地下式横穴墓といいます。また、地下のお墓入口を板材か石や土の塊で塞ぎ地下へ掘った穴を埋め戻すため、地表面で墓の存在を確認するのは難しいです。

地下式横穴墓は古墳時代に作られた墓で、全国でみても珍しく、南九州にしか存在しない墓です。南九州のなかでも、肝付平野周辺・都城盆地・西諸県地域（小林市など）・宮崎平野部域・えびの盆地・大口盆地・人吉盆地の大きく6つの地域にあることが確認されています。

飯隈遺跡群内には飯隈古墳群といって、9基の円墳が確認されています。近年こうした古墳群の周辺に地下式横穴墓が発見される例も多くなりました。飯隈遺跡群の地下式横穴墓は古墳時代でも中期（約1,500年前）の時期にあたり、横瀬古墳が築造された時期とも重なります。もしかすると、横瀬古墳に眠っている人物と深い関わりがある集団が飯隈遺跡の地下式横穴墓に葬られているかもしれません。発掘調査の成果は、次号②に続きます。

大崎町教育委員会 大野泰輔



地下式横穴墓模式図